



第 16 号

偕楽園公園を愛する市民の会
事務所
〒310-0845 水戸市 吉沢町 2-22
Tel・Fax
029-247-0438
ホームページ
http://www.kairaku-en.jp/

総会に
続いて、茨
城大学教
授 小野寺

平成二十九年通常総会

平成二十九年四月二十日、茨城県立歴史館講堂で通常総会を開催しました。会長あいさつ、来賓祝辞ののち、議事に入りました。

平成二十八年度の活動報告は、当初予定していなかった十周年記念式典の開催と、大好



会長報告

きいばらき県民会議からの助成金をもとにした多彩な活動など（前号に掲載）盛り沢山でしたが、すべて承認されました。

続いて平成二十九年年度の事業計画と予算案の審議。事業計画は例年と同

様ですが、委員会を活性化して会員の参加を薦めること、会員の増加と会費の増口を働きかけ、財政改善を図ることが呼びかけられ、承認されました。

次に、「平成梅林整備促進事業の終結につ



吉澤論語委員長

いて」の決議案が提案されました。これには P P V 感染により一時休止であった苗の収集と育成・定植が再開可能となったが、会員の

高齢化により継続困難であることから平成梅林整備事業は終結すること、事業の残金は募金の趣旨に合う用途を検討することが提案され了承されました。

記念講演「水戸へと続く江戸時代の道

—水戸道中と岩城相馬道—



小野寺教授の講演

淳氏に記念講演を行なっていたいただきました。小野寺氏は「茨城県歴史の道調査事業」で県内の江戸時代の道を調査した結果を踏まえて、表題のテーマについて話されました。

先ず江戸時代の道については、幕府が命じて作成・提出

させた「国絵図」や「郷帳」、「城絵図」「道帳」などと明治以降の地形図等を照合して、古道を推定していく作業を行ったこと、街道の制度は関ヶ原の戦いの後江戸と各地を結ぶために整備され、水戸街道はその付属道として造られたこと、「街道」は十九世紀以後広まった呼び方なので水戸道中と言った方がよい、などの前置きがありました。



講演後の質疑

地図、写真を示しながら水戸道中と岩城相馬道の茨城県内の道筋について説明され、水戸道中は享保十五年（一七三〇）まで道の一部変更が続いたこと、水戸道中の宿場には「御殿」と称する宿があったこと、仙台藩伊達家が四回常陸国を通過したこと、道標や馬頭観音などは筑波山の石が使われていることなど興味深い話がありました。

「世界的には水戸光圀公より、長久保赤水の方が有名」、「銷魂橋は水戸街

道の出発点ではない」など刺激的な指摘もあり、有意義な講演でした。

「逆川流域ウォーキング」

魅力向上委員会

平成二十九年五月十四日（日）、誰もが知っている笠原水道がある所、でも行ったことはい

い、そんな認識の逆川緑地を歩く「逆川流域ウォーキング」を開催しました。偕楽園公園魅力再発見ウォークの第三弾です。



笠原水源の竜頭水栓

雨上がりのさわやかなウォーキング日和の中、笠原水源に二四名が集まり、浴徳泉の碑、竜頭の水栓を観察、西原治氏の説明を受け出発します。その後水神橋を渡って「漱石の碑」を見、光圀公の偉業を偲びます。西原氏とジオパーク水戸・大洗のメンバーの案内で、水神橋広場から、湧水と整備された湿地の中の遊歩道を歩いて笠原水道の跡地を辿り、笠原水道の岩樋の



笠原水道の水路跡を辿る

展示と埋設場所に至って小休止。要所で西原氏の説明を受け、水戸の歴史・水戸の発



西原氏の解説

展が地形と関わることを学びました。その後小門橋を渡ってピクニック広場、水の遊び場を通り、ふれあい橋まで行きました。引き返して笠原水源に戻っておにぎりの昼食を食べ、逆川の魅力と感想や今後の利活用の方法について意見を交わしました。逆川流域は偕楽園公園構想

の中で水戸市が担当して整備がほぼ完了した緑地公園になっています。今回行かなかった上流には「昆虫たちのほらっぱ」、「わんぱく池」が整備され、ホテルの再生が図られています。今回歩いたそばにも「野鳥たちの森」、「生き物



ふれあい橋に至る

たちの広場」、「自然ふれあいの池」、「湿生植物観察エリア」、「自然観察の道」などと名付けられた場所が作られています。「ピクニック広場」や「水の遊び場」も家族連れで遊ぶにはとても快適そうです。水戸駅や近代美術館か

らそれほど離れていない、都市の中心にある自然にあふれる公園なのに、訪れる人があまりいない。梅の季節に来客が集中する偕楽園本園、市民でいつも賑わっている千波公園、広い未整備の自然を残した桜川緑地と沢渡川緑地と総合的に活用を考えたいものです。

会報「偕に楽しむ」第15号発行

研修委員会

平成二十九年四月二十日、総会に向けて会報『偕に楽しむ』第15号を発行しました。

年度初めの計画では昨秋に発行する予定でしたが、秋の行事の中心になる大名庭園サミット熊本大会が震災のため中止となったため発行を取りやめ、一年ぶりの発行となりました。一年間の行事を掲載しましたので、記事の分量が多くなりA5版4ページとなりました。掲載写真は小さいので、ホームページから少し大きいサイズで見ることが出来ます。

会員には総会当日配布し、欠席者には手渡しと郵送で届けました。インターネットのホームページからPDF版を見ることが出来ます。

活 動 報 告

借楽園公園魅力発信 Part II

「プラタモリ」もっと知りたい借楽園



探訪岩樋発掘現場へ出発



「プラタモリ」の講話



茶の湯の体験



平成二十九年六月二十日(火)〜二十五日(日)に、「プラタモリ」もっと知りたい借楽園をテーマに今年度はジオネット水戸・大洗を加えた八団体で開催しました。

会場の借楽園公園センターが市民にあまり知られず活用されていないので、これまでの各団体の活動内容の紹介パネルの展示のほか、笠原水道の岩樋の実物展示、NHK放映の「プラタモリ」のビデオ視聴、茶の湯の体験など市民に足を運んでもらえるよう工夫しました。

ワークショップも、水戸市ネットワーカー連絡協議会による「ポスチュアウォーキング」の講習会、水戸市環境会議とジオネット水戸・大洗による「探訪 岩樋の発掘現場」の借楽園南崖の観察会、茨城生物の会の「『光藻』についての講話」、歴史アドバイザー水戸と本会の『探訪くブラリ借楽園』と題する好文亭めぐり、拙誠会の茶の湯体験と多彩に用意しました。「プラタモリ」の効果か、昨年より展示の来客が増え、ワークショップ

弘道館 親と子の論語塾

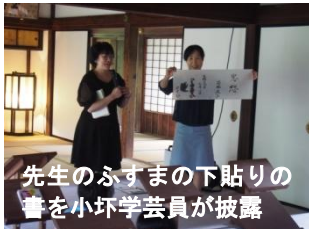
「論語委員会」



やってみよう！



先生のふすまの下貼りの書を小坏学芸員が披露



先生の下貼りの書を小坏学芸員が披露



ふれあいまつりステージで素読



図書館横の芝生上で素読

平成二十九年年度の論語塾は例年同様安岡定子先生を講師に迎え、毎月第一土曜日に、会場は四月から十二月までは弘道館至善堂、一月・三月は県三の丸庁舎会議室で、計二回実施の予定です。

今年の天候不順がかえって幸いし、昨年の八月のような猛暑に見舞われることもなく九月まで順調に進んでいます。

受講生も昨年からの継続が比較的多く、安岡先生の問いかけにはすかさず応えが聞かれます。今年のトレンドは首唱で、先生に代わって子どもが論語の章句を唱え全員がそれに続く、先生になった気分、「やってみよう！」の誘いにすぐさま何人も手が上がります。先生と子どもたちの優しい触れ合いは論語の「仁」の教えそのものと大人たちにも好評です。

二十九年二月水戸市主催の「日本遺産講演会」に壇上で披露した子どもたちの「素読」が好評で、効果の大きいことが実感しました。子ども同士が素読の練習では刺激し合っている声が大きく出せるようになっていきます。そこで、今年度は、四月八日の「大好きいばらさふれあいまつり」(県三の丸庁舎特設ステージ)、五月五日の「子ども読書フェスティバル」(茨城県立図書館)などの行事に積極

的に素読で参加を始め、思いやりの心、やり抜く強い精神力をゆつくり育んでいくこの学びを多くの人に発信しています。

借楽園花パートナークラブ

「魅力向上委員会」



5月パンジー苗植え足し



8月満開、一部徒長刈込



6月作業後の軽食



9月記念写真

昨年度環境委員会が解散し、担当していた従来の花パートナー活動が、魅力向上委員会に移譲されました。

委員会有志が協議し、花壇の内容を見直して借楽園公園に似合う和風の宿根草を中心に作り変えました。花の苗は会員が持ち寄りました。コンクリートブロックを寄付していただいて外周や花壇内の通路を作り、花を手にとって鑑賞できるようにしました。

病虫害予防の薬剤散布は、県公園事務所が委嘱した業者がやってくれますが、暑い中の草取りや苗の植え替えは大変です。

努力の甲斐あって二年目には季節ごとの花を咲かせてくれます。散歩中の方の「いつも楽しみに見せていた、いつも楽しい」の嬉しい言葉が励みになります。作業後のお茶の時間は楽しいひと時です。

現在一〇名前後のパートナーで、三月〜十一月まで月一回の花壇手入れを行っています(第二月曜日九時三〇分から)。一緒に花壇を育てて下さる仲間を募っています。

これからの活動予定

大名庭園サミット岡山大会

「交流委員会」

平成二十九年十月二十六日〜二十七日岡山後楽園で開かれる第十一回大名庭園サミットは、会報やホームページで予告し参加者を募集していましたが、一名(内歴史アドバイザー五名)の参加となりました。

なお、事前研修会を左記のように行います。

日時：十月九日 午後一時〜

会場：常磐神社社務所別館

講師：大槻功氏(本会副会長)

演題：岡山後楽園と岡山藩郡代津田永忠 顕彰会

借楽園周辺は、まだまだ知らない魅力満載です。借楽園を愛する市民の方々や周辺のボランティア活動に関わっている方々が集い、紅葉を探索し、借楽園の魅力創出を語り合う交流の集いを企画しました。ご参加お待ちしております。

日時：平成二十九年十一月二十三日(祝)

※雨天時は二十五日(土)に延期

第一部「紅葉狩りウォーク」

一〇時〜一二時

第二部「交流会」

一二時三十分〜一四時

詳細は同封チラシおよびホームページをご参照ください。

会からのお願い

当会は借楽園公園を愛する方々のボランティア団体です。会員の皆さまにおかれましては自主的に色々な催事にご参加くださいます。ご助言ご協力をお願いいたします。

また、少ない予算で事業をしておりまして、会員の会費と種々の助成金をいただいております。会員の新規加入のご推薦と増口のご協力を是非お願いいたします。事務所までご連絡をいただければ幸いです。